

山梨大学 正員 花岡利幸

1. 研究の目的と範囲

この報告は、余暇活動のために生ずる観光レジャー交通、その国土利用などの計画に際して、基礎資料を作成することを目的としておこなった研究の結果である。観光需要予測に関する研究分野は、発生と配分は大別することが出来るが、本報告での範囲は、発生の部分に限られている。

従来の観光発生に関する諸資料は、巨視的見地からのものが主であって、フィジカル・プランに役立つ資料に乏しいといえる。それゆえ、観光計画の立案にあたり、空間的な意味をも有する観光資料の必要性を感ずることが多い。そこで、フィジカル・プランの立案の際、都合のよいような資料をそろえることを第一の目的とし、次に、それに基づいて将来の観光発生需要の予測をおこなうことを試みた。

2. 研究方法と結果

1). 観光レクリエーションの分類

ここでは、生活維持のための労働と、生命維持のための生理的活動以外におこなわれる活動を余暇活動とし、そのうち屋外での空間を使っておこなわれる活動を観光レクリエーションとして、そこに含まれる諸活動を活動内容、活動時間、活動空間を考慮して、日常生活圏、日帰り圏、宿泊圏の活動に分類整理した。その結果は次のようである。

日常生活圏：スポーツ観戦、娯楽・行楽、教養文化(I), (II), 都市内スポーツ(I), (II)

日帰り圏、宿泊圏：観光慰安旅行、ドライブ旅行、自然の中での活動(I), (II), ウィンタースポーツ
その他、

2). 観光レクリエーション発生に関する実態調査

分類した観光レクリエーション活動について、京葉臨海工業地帯に対象地域を選び、約6000名のサンプル数によって、年齢階層別の観光発生状況を調査した。(才22回年次学術講演会概要)

3). 観光レクリエーション発生の需要予測

この調査結果およびその他の機関でおこなわれた調査結果に基づいて、次ページに示すような三つの方法を用いて観光レクリエーションの需要予測を試みた。

第一の方法は、京葉調査に基づく予測部分で、この調査結果の他に国勢調査の結果を利用した。過去の観光活動参加は、年をとってからの参加に影響を及ぼすという、観光活動参加の後年持続性の考えから、活動の将来パターンを推定するという微視的予測法をとった。観光活動の年齢分布による特徴を示すと、エネルギー消費の多い活動は、年齢の高齢化とともに極度に低下する。エネルギー消費の過激でないものはその低下の様子が緩慢である。娯楽・行楽的性格の強い活動は年齢の増加とともに直線的に減少し、そして観光旅行はどの年齢層にも好まれ、むしろ高齢化に従って参加人数が増加した。

